

カキ「太秋」の適正着果基準

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹研究室
担当者：谷口 政弘

研究のねらい

「太秋」は着果過多にすると、小玉果となり商品価値が低下するとともに、樹勢が衰弱して弱小枝が多くなるため雌花の着生が減少し、安定した収量と品質が得られなくなる。そこで、「太秋」に最も適した着果基準（葉果比）を確立する。

研究の成果

1. 葉果比が大きいほど果重は重くなるが、20～29枚/果区と30～39枚/果区とはほとんど差がない（図1）。
2. 着色は10～19枚/果区がやや劣り、20枚/果以上ではほとんど差がない（図2）。
3. 40～49枚/果区では果実が大きくなるため条紋が多く発生し、それからの汚損が多くなる（図3）。
4. 糖度については葉果比の影響は小さい（図4）。
5. 40～49枚/果区は果肉硬度が小さく、早く軟化しやすい（図5）。
6. 以上のことから、「太秋」の適正葉果比は30枚/果程度である。

普及上の留意点

1. 次年の結果母枝を確保するため、1結果枝1果になるように荒摘果は早めに実施する。ただし、弱い結果枝については2～3本に1果になるように摘果し、新梢伸長を促す。
2. 生理落果終了後の仕上げ摘果時に20～30枚/果にし、修正摘果で30枚/果程度に調整する。
3. 過度の摘果は収量を低下させ、条紋からの汚損を招くので慎む。

[具体的データ]

表1 「太秋」の葉果比と果実品質との関係

試験区	横径	縦径	果重	赤道部果皮色	果肉硬度	糖度	ヘタスキ	汚損
1区(10~19枚/果H15)	94	65	355	4.2	5.4	15.9	1.2	1.0
1区平均	94	65	355	4.2	5.4	15.9	1.2	1.0
2区(20~29枚/果H13)	99	67	405	4.7	4.3	17.3	1.6	0.7
2区(20~29枚/果H14)	95	68	377	4.6	4.8	17.6	0.5	1.2
2区(20~29枚/果H15)	98	71	419	4.5	5.4	15.2	1.0	1.0
2区平均	97	68	400	4.6	4.8	16.7	1.0	1.0
3区(30~39枚/果H13)	98	68	406	4.5	4.5	17.2	1.7	0.6
3区(30~39枚/果H14)	98	72	416	4.6	4.5	16.6	1.1	1.5
3区(30~39枚/果H15)	96	68	389	4.8	6.3	13.7	1.5	1.0
3区平均	97	69	404	4.6	5.1	15.8	1.4	1.0
4区(40~49枚/果H13)	100	69	425	4.9	3.5	17.9	1.7	1.2
4区(40~49枚/果H14)	99	72	421	4.6	4.0	16.6	1.1	1.6
4区(40~49枚/果H15)	100	71	436	4.3	5.0	16.3	1.7	2.0
4区平均	100	70	427	4.6	4.1	17.0	1.5	1.6

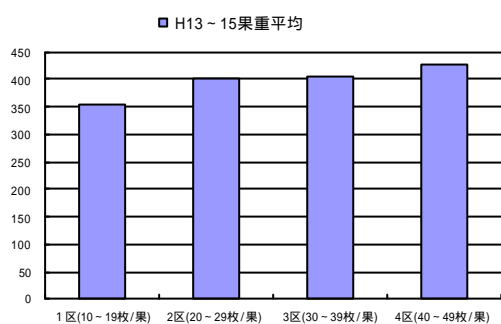


図1 葉果比と果重(g)との関係

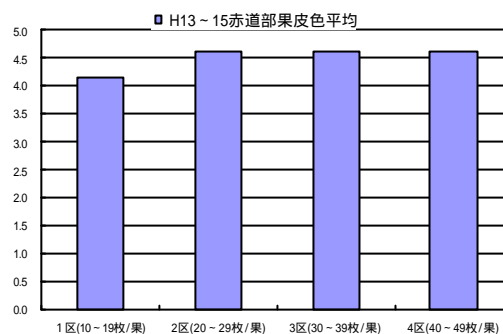


図2 葉果比と果皮色(カラーチャート値)との関係

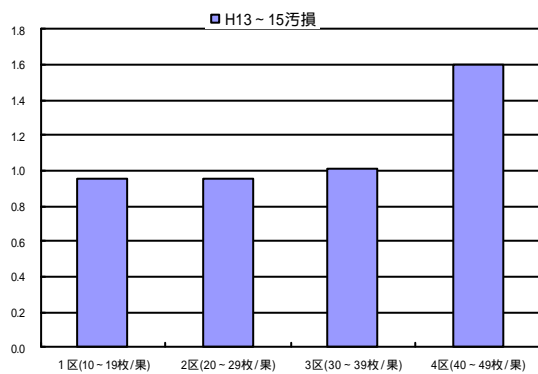


図3 葉果比と汚損程度(0~4)との関係

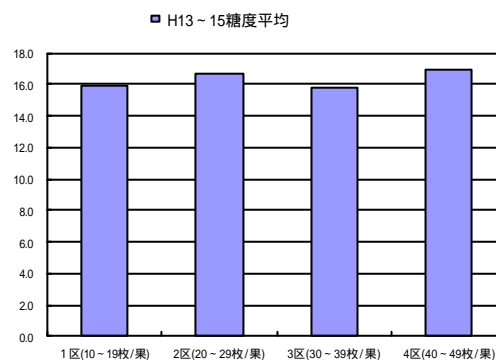


図4 葉果比と糖度(Brix)との関係

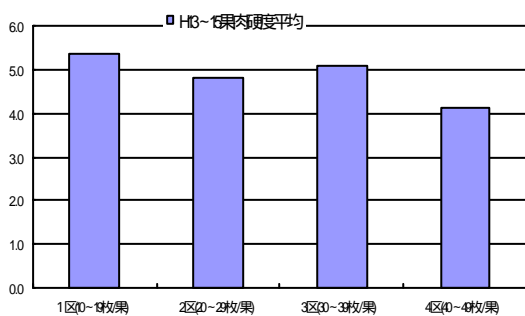


図5 葉果比と果肉硬度(lbs)との関係



「太秋」の適正な着果状態